

ビニールハウスを破くカラスをテグスで防ぐ

カラスが自動車のワイパーゴムや配管の断熱材など、カラスが食べられない物を損傷する事例が各地で知られています。農業においては、ビニールハウスの被覆フィルムをカラスが破く行動が問題になっています（写真1）。そこで、地上からの簡単な作業でテグスをハウスの上に張り、カラスがハウスに止まることを防いでフィルム損傷をなくす「ハウスにテグス君」を開発し、標準作業手順書（SOP）を公開しました（図1）。

☆ 技術の概要

1. カラスは警戒心が強く、体が大きく飛行の小回りも利かないことから、透明なテグス（ナイロン製の釣り糸）を張って果樹園や畑への侵入を抑制することができ、農研機構ではこれまでに果樹園のカラス対策「くぐれんテグスちゃん」、畑作物のカラス対策「畑作テグス君」などのテグス設置技術を開発しています。
2. 「ハウスにテグス君」では、これらを応用し、透明テグスをハウス上 30cm 程度の高さでジグザグに、弾性ポール（トンネル栽培用の資材）を使ってハウス周囲の地上からの作業で張ります。棟高 3m×間口 5m×奥行き 10m のハウスに設置する場合の作業時間は 2 人で 1.5 時間程度です。



写真1 カラスに破かれたハウスフィルム

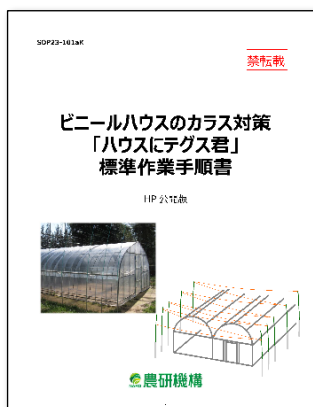


図1 標準作業手順書（左）とQRコード（右）



☆ 活用面での留意点

1. 棟高 3.5m まで、間口 20m までのビニールハウスに設置できます。棟高が 3.5m を超えると弾性ポールの長さが不足すること、間口が 20m を超えるとテグスの垂れ下がりが大きくなることにより、適用対象外となります。
2. 写真や図を多用して設置方法を分かりやすく解説した標準作業手順書（SOP）を農研機構ウェブサイトでご公開していますのでご参照下さい。

(https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/laboratory/naro/sop/160828.html)

3. 本技術はカラスによるビニールハウスのフィルム損傷対策を想定したものであって、他の鳥種の侵入対策や、畜舎へのカラス侵入防止対策としては効果が期待できません。

（農研機構 畜産研究部門 動物行動管理研究領域 吉田保志子）